

**2019新年
メッセージ**

新しいことを行う

<イザヤ書 43:14～19>

総会長 **金 鐘 賢**（浪速教会）



2019年 新年を迎え在日大韓基督教会(以下KCCJ)に属する全ての教会と、信徒皆さんの上に、主の恵みと愛、希望と喜びが満ち溢れますようにお祈り申し上げます。

私たちは、この新年を新しい希望をもって始めたいのです。けれども、しかし長い年月を在日韓国人として生きながら、自分たちを取り巻く日本の政治的、歴史的に暗い現実と直面し、希望より絶望の中を生きてきました。このような暗い現実の中で、私たちは一体どのようにして夢を見、希望を抱いていくことができるのでしょうか？

今日の御言葉は、バビロン捕囚末期、イスラエルに与えられた御言葉であります。当時、イスラエル民族は絶望と嘆きの中で神様に対する信仰を忘れ、神様の救いと解放を期待するよりも、神様は自分たちを忘れ、捨て去り、顧みてくださらない、と絶望と落胆の中にいました。

そのような状況で、イスラエル民族は希望を抱くことができたのでしょうか？彼らはイザヤが伝えた神様の御言葉を聞きました。イザヤは、神様は新しいことを成し遂げられるのだと語りました。今まで神様はイスラエルをバビロニアへと渡されてきたけれども、圧迫と差別、また蔑視され、ないがしろにされてきた捕囚時代が過ぎ去り、これからイスラエルの罪を許し、救われ、自由と解放、命と平和をくださる時代が始まると宣言しています。

では、私たちはどうでしょう。どうすれば希望を持つことができるのでしょうか？私たちは罪と死の法から解放され、主の十字架による救いを受け、罪から解放され、神の子という新しい存在になりました。（Ⅱコリント5:17）

それでは主が我々を通してなされようとしておられる新しいこととは何でしょうか？

1. 救いの御業であります。

神様はイスラエルをバビロン捕囚から解放し、エルサレムに帰還し神殿を再建して全世界を救うという新しい御業をなしとげようと望んでおられます。私たち、KCCJは昨年宣教110周年を迎え、120周年150周年にむかって新しい歴史の一步を歩みだしました。主がKCCJをたてられたことは在日同胞やこの地に住むすべての人へ福音を伝え、魂を救う

ためであります。死にゆく魂が一人でも多く、救いを受けることを望まれる主の心を抱いて、私たちが立ち上がり主の福音を伝える時、神様はこの新しい年、私たちを通して多くの魂が主に立ち返り救いを受けるという御業を成し遂げてくださるのであります。

2. 捕らわれた者、抑圧された者を自由にするという御業です。

神様はいつまでも神様の子、神の民、神に似せて創造された人間を抑圧と虐待、差別と蔑視の中で生きろと放ってはおかれません。和解と平和の御業を成し遂げてくださいます。去る2017年4月マイノリティ宣教センターが創立され、マイノリティ宣教が始まりました。今年は2・8独立宣言、3・1独立万歳運動が100周年を迎える年であります。その昔、非暴力、無抵抗で日本帝国主義の銃剣の前に、武器を持たず独立を叫んだ先烈たちのときの声と祈り、吠えたける声を知っています。主は私たちの先烈達の苦しみ、抑圧の中から自由と平和を求める声を聞いてくださり、日本帝国主義からの自由と解放を与えてくださいました。新しい年、神様は日本の地で平和と正義を叫び、神の国を夢見ながら生きる私たちを通して新しいことを成し遂げてくださると信じます。

3. 神様はイスラエルの切なる願いをかなえてくださいました。

イスラエルは70年にわたって自由と解放、イスラエルの回復を祈りました。彼らは70年間、絶えず祈ったにも関わらず、応えてはいただけませんでした。絶望し、落胆していたその時、神様はバビロニアからイスラエルの民を帰還させ、エルサレムを回復させる御業をなしとげると宣言なさいました。今日まで、私たちKCCJも、祖国の教会と共に韓半島の平和統一を願い、「私たちの願いは統一、夢でも願いは統一を」と歌いながら祈り続けました。私たちは新年を迎え、神様が韓半島の南北教会とKCCJ、海外同胞教会の切なる祈りと願いである南北統一を成し遂げる、という新しい御業を夢見て、共に祈りをあわせる一年であるようにと願うものであります。

韓日対照聖書販売



各ページ左に韓国語(改革改版)、右に日本語(新共同訳)が掲載されています。

●A5版変型・1772ページ

●価格：3,000円(消費税・送料込み)

※お求めは総会事務所へ

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格：2,500円(消費税・送料込み)

※お求めは総会事務所へ

2019年を迎えた新任宣教師たちのメッセージ

大垣教会 <蔡銀淑 牧師>

2018年6月17日委任



大韓イエス教長老会（大神・白石）から派遣され、日本宣教師として赴任してから2年が過ぎました。日本の中部地域の岐阜県に位置している大垣教会は2018年に創立85周年を迎えました。大垣市は、水の都と呼ばれるほど水が豊富な都市であり、糸を作り、繊維を製造する熱絲、紡績産業が発達した都市でもあります。繊維産業の発達でかつてそこに従事していた在日同胞たちが多く居住していました。今は繊維工場が人件費の安い海外に移り、韓国人たちも他の場所へ移動して、教勢が大部弱くなりました。しかし、傷ついた草を折ることなく暗くなってゆく灯心を消すことない神様の憐れみが、今も大垣教会を捕えておられます。

教会が教会としての役割を果たすためには、まず人が集まるのが最も重要な課題であります。人が集まって、教会が大垣地域にとって有益になることを願っています。魂の救いをなす霊的な有益はもちろんのこと、心と体の得になる愛の分かち合いが旺盛に行われ、肉の有益もなす教会になることを望んでいます。このため、神様御自ら働いて下さることを願う祈りと、隣人との関係とコミュニケーションを大切に積み上げていこうとしています。祈りの時間に覚えてください。

北上ベデル伝道所 <洪雄杓 牧師>

2017年5月18日委任



基督教大韓監理会から派遣された宣教師として北上ベデル伝道所に赴任し、牧会を始めて4年目になります。北上は日本の東北地方の岩手県にあります。劣悪な環境というのが、こういうことなんだと感じます。もちろんどこでも様々な生活がありますが、知っている人もいなく言葉も通じない日本の田舎に結婚して暮らしている韓国女性の人生とは本当に困難で疲れはて、死の瞬間を行き来しながら生活されています。苦勞して生きている人と一緒に過ごすことは心が痛む時がありますが、神様から与えられた使命として最善を尽くしています。

何よりも財政的な難しさがあります。数少ない信徒たちが力を合わせていますが容易ではありません。そのため最大限に節約し、すべてを最小限にしなければ伝道所の維持が難しいです。

2019年も寒くて長い冬と雪かきが始まりますが、苦痛と悲しみを分かち合い生きていかなければいけません。多くの祈りと関心、そして支援を求めます。

豊田めぐみ伝道所 <李珍容 牧師>

2017年6月25日委任



基督教大韓聖潔教会から派遣され、豊田めぐみ伝道所に赴任して3年目になります。豊田は日本の中部地方の愛知県に位置し、トヨタ自動車の本拠地として知られています。赴任してから豊田めぐみ伝道所の信徒たちと家族のような共同体になることのために努力しました。韓国人と日本人で構成されている信徒たちと生活しながら国籍は違っても、キリストの中で一つの家族になることに対して学んでいます。ありがたいことに私たちの教友たちがわたしを信頼しながら、共に協力してくれたので、これが可能になったと思います。たとえ数少ない信徒たちで構成されている小さい共同体であっても、互いに信頼しながら信仰生活を行うことができるので本当に嬉しいです。共に礼拝を捧げ、食事をし、集まって聖書勉強と祈祷会をしながらここ豊田の福音の火花となるように祈っています。又、地方会に、そして周りの牧師たちから受けた関心と愛を通して大きな力を得ています。2019年度も教会の上に注がれる神様の御恵みに期待しています。主の愛の中で互いに愛し合いながら主の体になった教会を建てる豊田めぐみ伝道所になりますよう願っています。

京都東山教会 <李承厚 牧師>

2018年6月17日委任式



大韓イエス教長老会（統合）から派遣され3年前に日本に入国し、日本語の勉強と東京中央教会での協力宣教師を経て京都東山教会の第4代目の委任牧師となりました。

わたくしは主の御前にお祈りし、2つのことを決断いたしました。第一に、主から教会を与えられた、この地域社会に根を下ろし、ここになくはない存在となり、地域の人々から信頼を得る教会になりたいと思います。第二は、教会が霊として一つになる聖霊共同体になることです。私たちの教会には日本人の信徒、そして韓国人の信徒が属しています。教会が世の中に出て、人々に伝道をするの前に、先ずは日本人と韓国人の信徒たちが聖霊において一つになる貴重な経験をしたいと思います。

私は京都東山教会を「小さい教会」だと思ったことは決してありません。それは、我々の教会は主の体であり、教会のかしらはイエス・キリストであるからです。ですが、牧師であるわたくしはまだ取るに足らない存在にすぎません。これから、たくさんのおアドバイスやお祈りをお願い申し上げます。

平野教会 <趙原徹 牧師>

2018年5月20日、副牧師就任



大韓イエス教長老会（統合）から派遣され、家族と一緒に日本へ来てから1年4ヶ月が経ちました。短い時間でしたが、言語的に文化的に高い壁にぶつかって韓国に帰りたいと何回も感じました。それでも神様が私たちを呼んでくださった所がここ、日本であるから、難しくて大変な時に

は神様を見ながら過ごしてきたと思います。「日本宣教」については、私がまだ宣教初年兵なので、その間の努力が空まわりしていたかも知れません。しかし、時間が経って時が来れば、もう少し深く幅広く取り組むことができると思います。ただ一つ明らかなことは、自分自身を良く牧会しなければならないことです。

もしかしら日本は霊的に寒い冬に置かれていて、また誘惑されるようなものがあちこちに散らばっているのを見ます。このような時に、聖書の御言葉のように、蛇のように賢く鳩のように素直でないと、私自身から簡単に崩れていくだろうと思います。

ですから、2019年度にはもっと覚めて聖書を読んでお祈りをする一年を送りたいと思います。聖霊充滿の中、教会の信徒たちと交わりながら、地域社会に福音を伝える生を生きることを誓って見ます。

RAIK

佐藤信行顧問に人権賞 KNCC人権センターから授与



韓国基督教教会協議会 (KNCC) 人権センターは、2018年度の人権賞を在日韓国人問題研究所 (RAIK) 顧問の佐藤信行さんに授与することを決定し、さる12

月6日、韓国基督教教会館の「ゾエホール」で授与式が行われた。

同人権賞はKNCCによって1987年に創設され、「韓国社会の民主化と人権伸長に特に貢献した個人及び団体」に授与されるもので、32回目の今年は「長年にわたって在日韓国人の人権運動に関わり、日本での移住者の人権運動に多くの功績を残した」との理由で佐藤信行さんに授与されることとなった。なお、今回は韓国において権力によるセクハラを告発し、韓国での「Me too」運動の原動力となった女性検事の徐ジヒョンさんとの共同受賞であった。

授賞式は、第1部の礼拝で、韓国教会が憎悪と差別に對峙し、差別を受け苦しんでいる障害者、難民、女性、性的マイノリティとともにあり続けることを確認し、第2部の授賞式に入った。

授賞式では、韓国の国家機関である韓国国家人権委員会の崔ヨンエ委員長長の祝辞があり、崔ヨンエ委員長は其中で「授賞式が行われているゾエホールは、韓国教会の民主化と人権の取り組みの拠点となった場所であり、韓国の民主化と人権運動はまさにこの場所から始まったと言っても過言ではない。KNCCの人権賞は1987年以来、その時々課題にふさわしく選定され、今回受賞された2人もまさに時を得た人権賞にふさわしい方々である」と述べられた。

授賞式では佐藤さんと徐ジヒョン検事に人権賞牌と賞金が贈られた後、2人の受賞者による謝辞があった。佐藤さんは「KNCCへの深い感謝と、今後とも日本社会の和解と共生に向けて努力していきたい。」と、決意を表明された。

なお、同人権賞の日本人受賞者は1996年に「韓国教会の民主

化運動の支援に功績があった」中嶋正昭元KNCC総幹事に続いて佐藤さんが2人目となる。
(報告：金成元長老)

KCCクリスマス祝会開催 イカイノ保育園と合同で開く 金成元KCC館長の退任式も同時に挙行

去る12月3日(月)午後6時から恒例のKCC・イカイノ保育園のクリスマス祝会がKCC5階ホールで行われた。

KCC幹事の申容燮牧師の司会のもと、厳かに礼拝が始まり、安藤眞一牧師(日本自由メソヂスト布施源氏ヶ丘教会)による「キャン



ドル・フォー・ライフ」という主題で説教があった。説教は子どもたちへの配慮から映像を使い、とても分かりやすく語られた。

引き続き祝賀会に移ったが、素晴らしい料理の数々が並べられて誰しもが満足気であった。イカイノ保育園の職員が準備した楽しいゲームの後、38年間に渡ってKCCに奉職された金成元館長の退任式が執り行われた。その功績をたたえて功労牌が理事長である鄭然元牧師から手渡された。イカイノ保育園職員から花束の贈呈の後、金成元館長から退任のあいさつがあり、会は終始和やかな雰囲気の中で閉じることができ、恵みにあふれたクリスマス祝会となった。
(報告：李根秀KCC主任幹事)

<総会手帳のお詫びと訂正及び追加>

総会手帳の住所欄に誤り及び抜けていた方がありましたので、お詫びして訂正いたします。

◎対馬めぐみ伝道所 住所：厳原⇒厳原町

◎西南地方所属 李恵蘭 住所：

〒813-0004 福岡市東区松香台1-8-13-202

◎派遣宣教師 朴憲郁 E-mail: hwpark1@wine.plala.or.jp

●神戸東部教会：金吉秀長老、朴永昊長老

●京都南部教会：三代川太郎長老

〒569-0824 大阪府高槻市川添2-27-15-302

参加手記

台湾エキュメニカルフォーラムに参加して

大阪教会 鄭 詩 温

台湾、国名だけ聞いた時なにを思い出すだろうか。私の頭に浮かんだのは小籠包、タピオカミルクティ、夜市、食べ物や観光地ばかりだった。だがそれは2018年11月28～30日に台湾の新竹市の新竹聖書学院で開催された「台湾エキュメニカルフォーラム」(TEF)の会議に参加するまでの話である。

この会議は台湾基督教長老教会(PCT)が主催し、国際社会での台湾の孤立や少数民族問題、厳しい立場に立たされている台湾の現状について約140人が各国から集まり話し合われた。日本からは、日本キリスト教協議会、日本基督教団、日本キリスト教会、そして在日大韓基督教教会から代表として岡山教会の金承熙牧師、青年としてわたしが参加したが、会議前日に開かれた「プレ・ユースミーティング」において私は参加する事が許された。

アジア太平洋、欧米諸国から約40人の青年らが集まり、台湾の歴史、先住民、中国との関係、台湾の痛みや苦しみを知った上で、世界の諸教会やエキュメニカル組織で何が出来たのかについて議論した。その内容をまとめ、「エキュメニカル・ユース宣言」という形で青年らの声をTEF会議内で表明した。

TEF会議のセッションの一つに「台湾と世界における正義

と平和のための連帯としてエキュメニズムを広げる」という議題があった。ジジモン・アラッカラム・ジョセフ神父は、最後にマタイ5:9とマルコ3:25を取り上げ「平和を実現する人々は一つの家族である。一つであるわれわれ教会が互いに協力と連帯を示さなければならない。われわれ教会が分裂してしまえば、平和をもたらすために道具となることも通路になることもできない」と語った。

私は台湾を通して世界へ正義と平和をもたらすためには、われわれ世界のキリスト教会が共に連帯し合い一つにならない事ではない事を胸に刻み、日本へと帰った。



●特集● 2・8 独立宣言 (2)

<歴史の断絶と連続>

RAIK 顧問 佐藤 信行



2.8独立宣言当時のYMCA会館

「わが民族は武断専制の不正、不平等の政治のもとでは、決してその生存と発展を享受することができない」「故に、わが民族は生存の権利のために独立を主張するのである」「わが民族は生存の権利のために自由な行動をとり、最後の一人に至るまで必ずや自由のために熱血をそそぐであろう」

この宣言は1919年2月8日、東京朝鮮YMCAに集まった朝鮮人留学生によるものであり、3・

1独立運動の始発点となった。またこれは、「宗主国の首都」において被植民地の民衆が独立を宣言したということで、世界史に類を見ない画期的な闘いでもあった。

今年2月8日、私たちはその100周年を迎える。私が2年前、東京韓国YMCA理事会で2・8研究会の設置を提案したのは、韓国および韓国人にとって「2・8」は現在につながる「連続する歴史」であるにもかかわらず、日本および日本人にとってそれは日本の敗戦（1945年）を機に「断絶された歴史」であること——その決定的な溝を、在日韓国人と日本人との共同作業で少しでも埋めていきたい、と願ったからである。

そして昨年11月まで、日本・在日・海外の研究者を招いて全6回の研究会と公開セミナー、米国アリゾナ大学での宣教師関係資料の収集を重ね、今年2月9日東京（在日本韓国YMCA）と2月15日大阪（KCC）で、国際シンポジウムを開催するまでに至った。シンポジウムの目的は、研究者のみならず、広く日・韓・在日のキリスト者・市民が、2・8独立宣言の歴史的意義を確認し、その現代的意味と、今後の日・韓市民社会の共同課題を考える——とした。

日本国家および日本人にとって「断絶された歴史」を検証しようとする時、かつての植民地支配とは、圧倒的な軍事力を

基盤として政治的・経済的・社会的管理システムを張りめぐらして、人びとの生活と心を屈服させ従属させるばかりか、植民者である日本人の精神をも内側から腐蝕し呪縛していくものとしてあったこと。そのことを、私たち日本人は戦後克服することができたのかを真摯に問うことが必要である。さらに、日本の教会およびキリスト者は、次のメッセージを確認したい。

「私たちは過去の悪事を、それがあたたかも起こらなかったかのように忘れることはできない。犠牲者に忘れることを強いることは、彼らの尊厳を再び貶めることになる。私たちは、決して忘れることはできないが、違った仕方では記憶することはできる。つまり、私たちが過去と加害者（悪事の行為者）に対し、それまでと違った関係を築くことを可能とする記憶の仕方があるのである。それが、私たちがキリスト者として招かれていることなのである」「真実、記憶、悔い改め、正義、赦し、そして愛は、包括的で完全な和解にとって重要で本質的なものである」（2005年5月、WCC世界宣教会議）。

まず、予断と偏見を捨てて歴史を直視すること、その過酷な歴史に生きた人びとの「声なき声」を聞こうとすること、その歴史の断片にさまざまな可能性を見出し検証すること——それを在日・韓国・日本の市民社会の共同作業として、具体的に、着実に積み上げていく。その中に「真実の和解」が見えてくるだろう。

「神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務を私たちにお授けになりました」（Ⅱコリント5：18）



2.8 独立宣言の主役者たち

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 吳永錫（東京希望キリスト教会 長老）

四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

女性のための電話相談

DVや子どもの問題など
ひとりで苦しんでいませんか
話すことは解決への第一歩…



☎ 06-6731-1616

〈電話受付〉第1・3・5週土曜日 正午12時～午後4時

日本語 第1・3・5土曜日 韓国語 第1・3土曜日